

平成27年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成27年度資源評価](#) > ダイジェスト版

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

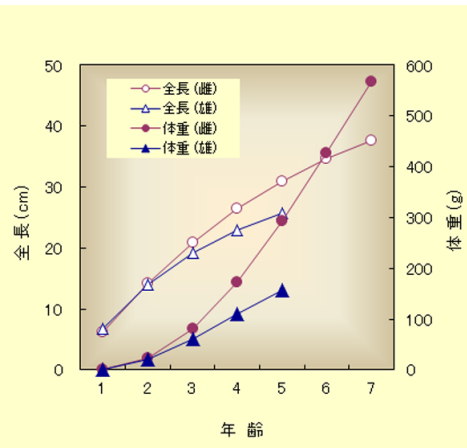
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命： 7歳以上
成熟開始年齢： 雄2歳（50%）、3歳（100%）、雌3歳（100%）
産卵期・産卵場： 1～3月、対馬周辺海域および島根県浜田沖
索餌期・索餌場： 周年、日本海西部
食性： エビジャコ類やアミ・オキアミ類、全長15cm以上ではキュウリエソなどの魚類、20cm以上ではホタルイカ等のイカ類
捕食者： 不明

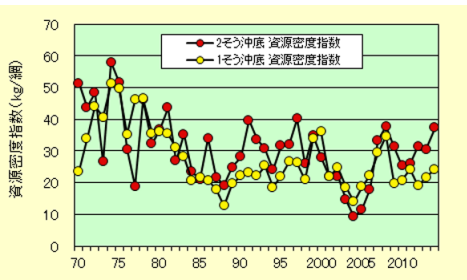
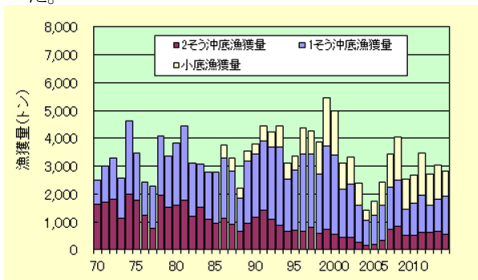


漁業の特徴

1そうびきおよび2そうびき沖合底びき網(沖底)と小型底びき網(小底)によって漁獲される。1990年代前半までは沖底の漁獲量が総漁獲量の80～90%を占めていたが、近年は小底の漁獲割合が30%前後まで増加した。

漁獲の動向

漁獲量は、漁獲統計が整備された1986年以降では1999年に5,000トンを超えたが、その後急減して2004年に最低の1,500トン未満まで減少した。2005年以降は概ね2,000～4,000トンの間を変動しており、2014年は2,800トンであった。



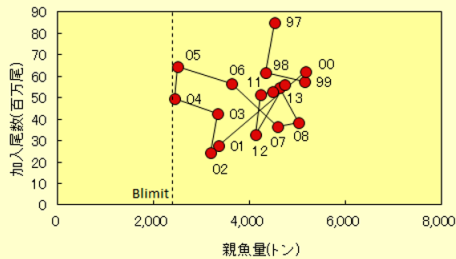
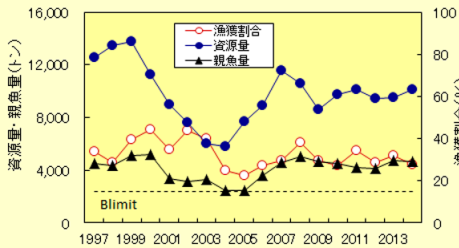
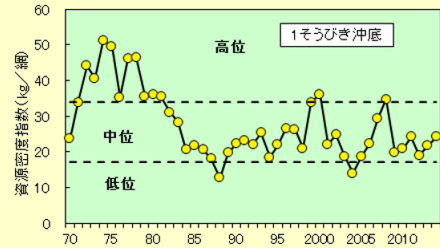
資源評価法

漁獲統計資料から求めた資源密度指数と資源量から、資源状態を判断した。なお、資源量は漁獲量の大半を占める1そうびきおよび2そうびき沖底の年齢別漁獲尾数を基に資源密度指数でチューニングしたコホート解析により推定した。

資源状態

資源量(1歳以上)は1999年の1.38万トンから2004年には5,800トンまで減少した後2007年は1.16万トンまで増加した。2009年以降は1万トン前後で推移し、2014年は1.01万トンとなった。漁獲割合は1999～2003年に35～44%であったが、2004年に25%に低下し、その後23～38%の間で推移している。2014年の漁獲割合は28%であった。資源水準は、漁獲量の比率が高い1そうびき沖底の1970～2014年の資源密度指数の最高値と0を三等分して、高位、中位、低位とし、2014年は中位水準と判断した。動向は、2010～2014年の資源量の推移から横ばいと判断した。資源水準の低位と中位の境界付近に相当する2004年の親魚量2,400トンをBlimitとした。2014年の親魚量は4,700トンで、Blimitを上回っている。





管理方策

2014年の親魚量はBlimitを上回っていることから、2014年以降の親魚量の維持(Fmed)を管理目標として、2016年ABCを算出した。再生産成功率は資源計算を行った16年間(1997～2012年)の中央値(RPSmed)で一定と仮定した。2014年の漁獲係数はFmedよりも若干低い。

管理基準	Limit/Target	F値	漁獲割合(%)	2016年ABC(百トン)
Fmed	Limit	0.49	33	33
	Target	0.39	28	28

- 本系群のABC算定には規則1-1)-(1)を用いた
- Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量
- Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の増大または維持が期待される漁獲量
- $F_{target} = F_{limit} \times \alpha$ とし、係数 α には標準値0.8を用いた
- F値は各年齢の漁獲係数(F)の単純平均
- 漁獲割合は2016年のABC／資源量

資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は横ばい
- 2014年の資源量は1.16万トン、親魚量は4,700トンでBlimit(2,400トン)を上回っている
- 現状の漁獲圧はFmedより若干低い

管理方策のまとめ

- 親魚量の維持(Fmed)を管理目標としてABCを算定した

執筆者: 銭谷 弘・藤原邦浩・上原伸二

資源評価は毎年更新されます。